

文 学 部

履 修 要 項

昭 和 60 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(月) {入学式(学部・短大)
积尊降誕会
- 9日(火) {
- 12日(金) } 新入生オリエンテーション
- 11日(木) {
- 12日(金) } 在校生成績発表(学部・短大)
- 11日(木) {
- 16日(火) } 成績質疑応答
- 13日(土) 授業開始
- 15日(月) 祝禱音楽法要の日
- 18日(木) {
- 19日(金) } 履修届受付(学部・短大1年次生)
- 22日(月) {
- 27日(土) } 履修届受付(学部2.3.4年次生・短大2.3年次生)
(学部により受付日が異なる)
- 29日(月) 天皇誕生日
- 5月1日(水) 祝禱日
- 3日(金) 憲法記念日
- 4日(土) 研修日(全学休業)
- 5日(日) こどもの日
- 14日(火) {
- 23日(木) } 春季健康診断(2.3.4年次生対象)
- 15日(水) 祝禱音楽法要の日
- 6月1日(土) 祝禱日
- 10日(月) 卒業論文論題受付締切(正午)
- 15日(土) 祝禱音楽法要の日
- 7月1日(月) 祝禱日
- 10日(水) {
- 16日(火) } 中間試験(授業平常通り)
- 15日(月) 盂蘭盆会
- 17日(水) {
- 18日(木) } 前期定期試験(前期終了科目)
(授業休講)
- 19日(金) 夏季休暇第1日

後 期

- 9月9日(月) 授業再開
- 12日(木) 前期定期試験欠試届(追試申込)受付締切
- 12日(木) {
- 19日(木) } 外国語指定届受付(仏教・文(除英米文)・法学部・短大国文・英文の1年次生及び経済学部の2年次生)
- 15日(日) 敬老の日
- 17日(火) 祝禱音楽法要の日
- 17日(火) {
- 18日(水) } 前期定期試験成績発表及び再試験申込受付
- 23日(月) 秋分の日
- 25日(水) {
- 27日(金) } 前期追・再試験(授業平常通り)

- 29日(日) 両祖(道元・瑩山禪師)忌
- 10月1日(火) 祝禱日
- 1日(火) {
- 4日(金) } 秋季健康診断(1年次生対象)
- 3日(木) {
- 4日(金) } 専攻コース指定届受付(歴史・社会学科1年次生)
- 5日(土) 達磨忌
- 10日(木) 体育の日
- 11日(金) {
- 12日(土) } 前期追・再試験成績発表
- 15日(火) 第103回開校記念日(全学休業)
- 16日(水) 祝禱音楽法要の日
- 11月1日(金) 祝禱日
- 3日(日) 文化の日
- 13日(水) {
- 15日(金) } 転部科試験願書受付
- 15日(金) 祝禱音楽法要の日
- 21日(木) 太祖(瑩山禪師)降誕会
- 23日(土) 勤労感謝の日
- 29日(金) 転部科試験
- 12月1日(日) 祝禱日
- 4日(水) {
- 12日(木) } 編入学試験願書受付
- 8日(日) 成道会
- 10日(火) 卒業論文受付締切(正午)
- 18日(水) 冬季休暇第1日
- 19日(木) 編入学試験
- 昭和61年
- 1月8日(水) 授業再開
- 15日(水) 成人の日
- 16日(木) {
- 27日(月) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 26日(日) 高祖(道元禪師)降誕会
- 1月28日(火) {
- 2月5日(水) } 定期試験(一般・外国語・保健体育科目)
- 1日(土) 祝禱日
- 7日(金) {
- 11日(火) } 定期試験欠試届(追試申込)受付締切
卒業論文口頭試問
- 11日(火) 建国記念の日
- 15日(土) 涅槃会
- 19日(水) {
- 20日(木) } 成績発表及び追・再試験申込受付
(学部4年次生・短大生)
- 26日(水) {
- 3月4日(火) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
追試験(学部1.2.3年次生)
- 1日(土) 祝禱日
- 19日(水) 卒業生名簿発表
- 21日(金) 春分の日
- 25日(火) 卒業式(学部・短大)

目 次

I	単位制と学年制	(2)
1.	単位制と学年制	(2)
2.	授業科目の単位計算	(2)
3.	授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
1.	卒業に必要な単位数	(3)
2.	卒業論文	(14)
3.	学士号	(14)
III	授業科目の履修方法	(15)
1.	一般教育科目の履修方法	(15)
2.	外国語科目の履修方法	(17)
3.	保健体育科目の履修方法	(20)
4.	基礎教育科目の履修方法	(24)
5.	専門教育科目の履修方法	(25)
6.	随意科目の履修方法	(50)
7.	再履修科目の履修方法	(50)
	※コード番号について	(51)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(53)
1.	履修科目の登録	(53)
2.	履修届記入上の注意	(54)
3.	履修届の作成順序	(55)
V	試験および成績評価	(57)
1.	定期試験	(57)
2.	中間試験	(57)
3.	追・再試験	(57)
4.	受験心得	(58)
5.	成績評価・単位認定	(58)
VI	進級について	(59)
VII	クラス制およびクラス主任	(60)
VIII	教職課程・資格講座	(60)
IX	事務取扱いについて	(61)
X	届書・願書について	(62)
XI	各種証明書取扱い窓口	(63)
	試験実施規程(抜萃)・進級規程・進級基準	(64)
	講義内容	(69)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、各入学年度によって定められた一定の基準にしたがって授業科目を履修し、試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を修得していく制度である。卒業所要単位を修得するまでの在学期間は4カ年以上（7カ年をこえてはならない）である。

また、単位の修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されている。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は教室内における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は、授業科目によって異なっている。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）

(a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目

(b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目

(c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒業論文(必修)		8		

英米文学科

A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 58・59年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒業論文(必修)		8		

C. 57年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		5	12	12	
専門教育科目	必 修	6	24	72	
	選 択		40		
	卒業論文(必修)		8		

地理学科

A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒業論文(必修)		8		

歴史学科

A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

B. 59年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	} 128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒業論文(必修)		8		

社会科学

〔社会学コース〕

A. 60年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	2	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会学コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	8	32	72	
	選 択		32		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用

〔社会福祉コース〕

A. 60年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	12	48	72	
	選 択		16		
	卒業論文(必修)		8		

〔社会福祉コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	9(10)	36(40)	72	
	選 択		28(24)		
	卒業論文(必修)		8		

※ () の内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

〔心理学コース〕

A. 60年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

B. 57～59年度入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修得単位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3	12	12	
専門教育科目	必 修	8	28	72	
	選 択		36		
	卒業論文(必修)		8		

〔心理学コース〕

C. 56年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	} 132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必 修	11	38	72	
	選 択		26		
	卒業論文(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

2. 卒業論文

イ. 4年次で卒業論文（1部）を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。なお、審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出について

- (1) あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降適当な選択科目を履修し、論題提出日までに、所属の教員に自己の研究概要を述べ、その承認を得なければならない。
- (2) 論題は所定の用紙「卒業論文論題届」に楷書で正確に記入の上、指導教授の承認印を受けて提出すること。
- (3) 提出された論題の変更は原則として認めない。

論題提出期間 5月27日（月）～6月10日（月）正午まで（教務部⑥番窓口）

ハ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 論文は提出した論題により作成すること。
- (3) 用紙は所定の論文用紙を使用すること。
- (4) 論文は楷書でていねいに書くこと。
- (5) 論文の枚数・表紙・体裁等については別に指示する。

ニ. 論文提出について

- (1) 論文は論題受付印のある「卒業論文審査願」とともに提出すること。
- (2) 提出期間に遅れた場合や「卒業論文審査願」のない場合は受理しない。
- (3) 論文は誤字・脱字・内容等について再点検し、提出すること。

論文提出期間 12月2日（月）～12月10日（火）正午まで（教務部⑥番窓口）

ホ. 論文審査について

論文は指導教授によって審査され、論文の内容について口頭試問を行い可否を判定する。

口頭試問日 2月7日（金）

3. 学 士 号

大学に4ヵ年以上（7ヵ年をこえてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の称号が与えられる。

国文学科	}	文学士
英米文学科		
地理学科		
歴史学科		
社会学科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない）
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学科 \ 分野	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科	16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
英米文学科	16(4)	8(2)	4(1)	28(7)
地理学科	12(3)	12(3)	8(2)	32(8)
歴史学科	16(4)	12(3)	8(2)	36(9)
社会学科	12(3)	12(3)	8(2)	32(8)

※（ ）内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

学科	分野	人文分野			社会分野			自然分野			
		授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	
国文学科		宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 16単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む) (2年次)	4	2科目 8単位 選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	1科目 4単位 必修
		宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4			心理学	4	
		哲学	4		社会学	4			人類学	4	
		理学	4		社会学	4					
		論理史術 (日本・西洋)	4		地理学	4					
英米文学科		宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 16単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む)	4	2科目 8単位 選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	1科目 4単位 必修
		宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4			心理学	4	
		哲学	4		社会学	4			人類学	4	
		理学	4		社会学	4					
		論理史術 (日本・西洋)	4		地理学	4					
地理学科		宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 12単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む)	4	3科目 12単位 選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	数学	4	2科目 8単位 必修
		宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4			物理学	4	
		哲学	4		社会学	4			化学	4	
		文術	4		文化人類学	4			生物学	4	
		論理史術 (日本・西洋)	4								
歴史学科		宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 16単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む)	4	3科目 12単位 選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	2科目 8単位 必修
		宗教学 II (2年次必修)	4		経済学	4			地学	4	
		哲学	4		社会学	4			心理学	4	
		論理史術 (日本・西洋)	4		社会学	4			人類学	4	
			4		地理学	4					
社会学科		宗教学 I (1年次必修)	4	「宗教学 I・II」を 含む 12単位 選択必修	法学憲法 (日本国憲法を含む)	4	3科目 12単位 選択必修	教員免許状を取得しようとするものは「法学憲法」を必修とする。	自然科学概論	4	2科目 8単位 必修
		宗教学 II (2年次必修)	4		政治学	4			生物学	4	
		論理史術 (日本・西洋)	4		政治学	4			地学	4	
			4		社会学	4			人類学	4	
			4		地理学	4					

※ 国文学科の「論理学」は56年度以前入学生は1年次必修とする。57年度以降入学生は選択必修とする。

※ 「宗教学 I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行なう。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と、入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1外国語

学 科 年 次		国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
		科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1	年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
2	年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4
3	年 次	—	—	1科目	2	—	—	—	—	—	—

第2外国語

学 科 年 次		国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
		科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1	年 次	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4	2科目	4

1年次の履修

6ヵ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数	備 考
英 語 1G	2		1G・1R2科目を必修とする。ただし1Gは、英会話または英語LLに代替できる（ただし英米文学科は英会話に代替できない）	LL（ランゲージ・ラボラトリー）
英 語 1R	2			
英 会 話	2			
英 語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ド イ ツ 語 1G	2	文 法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語1G・1Rの2科目を必修すること	
ド イ ツ 語 1R	2	講 読		
フ ラ ン ス 語 1G	2	文 法		
フ ラ ン ス 語 1R	2	講 読		
中 国 語 1G	2	文 法		
中 国 語 1R	2	講 読		
ス ペ イ ン 語 1G	2	文 法		
ス ペ イ ン 語 1R	2	講 読		
ロ シ ア 語 1G	2	文 法		
ロ シ ア 語 1R	2	講 読		

※英語科目内容

英語1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。ただし英米文学科は英語を第1外国語とする。

授業科目	単位	科目内容	授業科目	単位	科目内容
英語 2AⅠ	2		中国語 2AⅠ	2	講 読
英語 2AⅡ	2		中国語 2AⅡ	2	講 読
ドイツ語 2AⅠ	2	講 読	スペイン語 2AⅠ	2	講 読
ドイツ語 2AⅡ	2	講 読	スペイン語 2AⅡ	2	講 読
フランス語 2AⅠ	2	講 読	ロシア語 2AⅠ	2	講 読
フランス語 2AⅡ	2	講 読	ロシア語 2AⅡ	2	講 読

※英語科目内容

英語2AⅠ：講読を通し、はば広い教養を修得する。

英語2AⅡ：意志表現と意志伝達の能力を発展させ、応用力を修得する。

3年次の履修（英米文学科のみ）

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 3A	2	講 読	3Aを1科目必修

※「英語3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号(下4ケタ)により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月中旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で十分考慮の上登録すること。なお、英米文学科は英語を第1外国語とする。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生は、旧カリキュラムが適用される。

A. 60年度入学生適用

講義と実技に分かれる。講義は1年次に1科目2単位、実技は1年次1科目1単位〈体育実技Ⅰ〉、2年次1科目1単位〈体育実技Ⅱ〉の3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次 通 年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。
- ニ. 講義・体育実技Ⅰは月曜日に玉川校舎で授業を行う。
- ホ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。
 - A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業
 - B. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される有料のシーズン・コースの授業
 - C. 前期（夏季休暇中）または後期（冬季休暇中）に実施される玉川校舎での集中授業
- ヘ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 59年度以前入学生適用

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前期または後期
実 技	体育実技	2	通 年

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義・実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

1. 体育実技Ⅰの授業について（59年度以前入学生は体育実技）

前期・後期とも、それぞれ履修時間表（次頁）に含まれている数種目の中から選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間において、前・後期種目選択のためのオリエンテーションを実施し、決定するので必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。種目選択した種目名や担当者名ではない。

体育実技 I 時間表（1 年次，玉川校舎で実施する）

	月・1（禅・仏・国）	月・2（英・地）	月・3（歴・社）
	担任名 森本	担任名 森本	担任名 太田
種目担当者名	トレーニング 武藤	トレーニング 武藤	トレーニング 武藤
	室内球技 久保田	室内球技 久保田	室内球技 久保田
	テニス 浅野	テニス 浅野	テニス 浅野
	ソフトボール 太田	ソフトボール 太田	ソフトボール 太田
	陸上競技 森本	陸上競技 森本	陸上競技 森本
	体操 竹田	サッカー 秋田	サッカー 秋田
	卓球 村松	卓球 原山	卓球 村松
	剣道 上山	剣道 上山	剣道 上山

※59年度以前入学生は体育実技。

再履修クラス時間表（2 年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で実施する）

	火・3	水・1	水・2
	担任名 大石	担任名 三幣	担任名 上山
種目	室内球技 竹田 太極拳 大石	室内球技 三幣 剣道 上山	室内球技 森本 剣道 上山

(c) 単位の認定について

1 年間の授業を通して、1 単位（59年度以前入学生は2 単位）を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1 年間の授業によって単位の認定が行われる。

(d) 評価について

週1 回の授業を真剣に受講することが実技の重要な意味であることから、本学においては評価の上で出席を最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験等の点数、および平常の授業における態度が加味されて実技の評価が行われる。

(e) 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担

任教員より指示を受けること。

(f) 服装, 更衣について

種目毎に, それぞれの担任教員の指示に従い, 指定された場所以外では着替えないこと。

(g) 盗難・事故・負傷について

①盗 難: 実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近, 特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので十分注意してほしい。

②事故・負傷: 実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

(h) 掲示について

実技上の連絡は, 玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので, 平常よく見ておくこと。

2. 体育実技Ⅱの授業について (60年度入学生適用)

2年次の前期または後期に, 次のA, B, Cの体育実技Ⅱの授業の中から, 1つを選んで履修し単位を修得する。

A. 本校での授業

授業は, 学部学科の指定はなく全学部オープンである。昭和61年度履修要項に記載する体育実技Ⅱの授業時間表の中から, どの時間どの種目でも選択し履修することができる。ただし, 履修できるのは1時間, 1種目だけに限る。また各時間, および種目は定員になり次第締切。なお, 定員に達しない種目のうち極端に人数が少ない種目の場合, 他の種目に移行して受講しなければならない場合もあり得る。単位は, 前期または後期授業により1単位を認定する。

時間・種目の決定と履修届提出の方法と順序について

① 教務部に履修届を提出する以前に「体育実技Ⅱ種目選択届」を行う。

開講時限および種目は, 昭和61年度履修要項に記載する。

② 「体育実技Ⅱ種目選択届」の方法

○期間: 在校生成績発表日より5日間とする。この期間に種目選択を行わない場合は, 原則として体育実技Ⅱを履修することはできない。

○場所 } 未定 実施前に掲示板にて指示, および昭和61年度履修要項に記載する。
○時間 }

○持参する物: 種目選択届用紙 (成績発表時に配布する), 学生証, 教務部提出用履修届用紙, 昭和61年度授業時間表

○種目選択届が受理されると, 教務部提出用履修届に種目選択済の確認印が押される。

③ 教務部への履修届提出

○種目選択済の確認印のない履修届は受付けない。

B. シーズン・コース

シーズン・コース授業は, 原則として本校での授業の体育実技Ⅱ (前記A) の選択が困難と認めら

れた場合に履修することができる。単位は、本校での前期または後期の授業と同様1単位を認定する。実施期間は、前期が夏季休暇中、後期が冬季休暇中とする。

○開講予定種目

前期	テニスA
	テニスB
後期	スキーA
	スキーB

※AとBは、実施場所または時期が異なる。

○具体的日程については、昭和61年度履修要項に記載する。

○申込み方法：「本校での授業」（前記A）と同様とする。なお履修届はあらかじめシーズン・コース用に設定された土曜日、5時限（前期または後期）で提出する。

C. 集中授業コース

集中授業コースはシーズン・コースと同様原則として本校での授業の体育実技Ⅱ（前記A）の選択が困難と認められた場合に履修することができる。単位は本校での前期または後期の授業と同様1単位を認定する。

実施期間は、前期が夏季休暇中、後期が冬季休暇中とする。

○開講予定種目

前期・後期とも、ソフトボール、バドミントン、卓球、太極拳、ジャズダンスなど。

○具体的日程については、昭和61年度履修要項に記載する。

○申込み方法：「本校での授業」（前記A）と同様とする。なお、履修届はあらかじめ集中授業コース用に設定された土曜日、5時限（前期または後期）で提出する。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で各年次別履修順序は、次表のとおりである。

学年 年次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
1 年 次	基礎国語学	4	英文学概論または米文学概論	4	基礎自然地理学	4	基礎歴史学	4	社会学概論	4
	基礎国文学	4	基礎英語 I A	2	基礎人文地理学	4			社会福祉概論	4
	基礎中国文学	4	基礎英語 I B (会話)	2					心理学概論	4
2 年 次			基礎英語 II A	2						
			基礎英語 II B (会話)	2						

(注意)「基礎自然地理学」は「基礎地学(自然地理学)」を、「基礎人文地理学」は「基礎地理学(人文地理学)」を名称変更したものである。

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	国 文 学 科	英米文学科		地 理 学 科	歴 史 学 科	社 会 学 科					
		58年度以 降入学生 適用	57年度以 前入学生 適用			57年度以降入学生適用			56年度以前入学生適用		
						社	福	心	社	福	心
必修科目	36(12)	28(7)	24(6)	16(6)	32(8)	48(12)	48(12)	28(8)	32(8)	36(9)	38(11)
選択科目	28	36	40	48	32	16	16	36	32	28	26
卒業論文	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72	72

(注意) イ. () 内の数字は科目数。

ロ. 社会学科福祉コースで、昭和53年度以前入学生は10科目40単位を必修とする。

国文学科

必修科目（44単位）

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国文学講読Ⅰ	2		国語学演習Ⅰ	2	1科目2単位選択必修 （原則として卒業論文 に関連のある分野の 演習を履修すること）
			国文学演習Ⅰ（上代）	2	
2 年 次 必 修			国文学演習Ⅰ（中古）	2	
国語学概論	4		国文学演習Ⅰ（中世）	2	
国文学概論	4		国文学演習Ⅰ（近世）	2	
国文学講読Ⅱ	2		国文学演習Ⅰ（近代）	2	
中国文学講読	2		4 年 次 必 修		
			国文学研究	4	1科目4単位選択必修 （3年次で必修または 選択として履修した 科目以外を履修する）
3 年 次 必 修			国文学史Ⅰ	4	
国文学史Ⅰ	4	1科目 4単位 選択必修	国文学史Ⅱ	4	
国文学史Ⅱ	4		国文学史Ⅲ	4	
国文学史Ⅲ	4		国文学史Ⅳ	4	
国文学史Ⅳ	4		国文学史Ⅴ	4	
国文学史Ⅴ	4		国語学演習Ⅱ	2	
国語学研究	4		国文学演習Ⅱ	2	1科目2単位選択必修 （卒業論文に関連のあ る分野の演習を履修 すること）
国文学講読Ⅲ	2		卒業論文	8	

（注意）3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次でも「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

「国文学史」の講義内容はⅠ（上代）・Ⅱ（中古）・Ⅲ（中世）・Ⅳ（近世）・Ⅴ（近代）とする。

選択科目（28単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
言語学概論	4		国文学特講Ⅱ	4	
国語史	4	休講 } 隔年開講	国文学特講Ⅲ	4	
国語学史	4		国文学特講Ⅳ	4	休講
上代文学	4			中国文学	4
中古文学	4		東洋思想研究	4	
中世文学	4		中国文学演習	4	
近世文学	4		現代美術	4	
近代文学	4		書道実習Ⅰ	4	
英米文化	4	旧外国文学	書道実習Ⅱ	4	
文学概論	4		美術史概説	4	
中国文学概論	4		美術史	2	
有職故実	4	休講	国文学史Ⅰ	4	選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること
書道史	2		国文学史Ⅱ	4	
仏教概論	4		国文学史Ⅲ	4	
日本史概説Ⅰ	4	古代, 中世	国文学史Ⅳ	4	
日本史概説Ⅱ	4	近世, 近代	国文学史Ⅴ	4	
日本文化史Ⅰ	4	休講 } 隔年開講	編集実務	2	
日本文化史Ⅱ	4		日本民俗学	4	
国文学特講Ⅰ	4				

（注意）「国文学史」の講義内容はⅠ（上代）・Ⅱ（中古）・Ⅲ（中世）・Ⅳ（近世）・Ⅴ（近代）とする。

「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは時代・履修順序等との関係はない。

英米文学科

必修科目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位)

2年次必修			4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		卒業論文	8	14頁参照
英作文 I	4		2年次または3年次必修		
3年次必修			文学史(英米文学史 I) (英米文学史 II) (米文学史)	8	2年次1科目 3年次1科目 計2科目選択必修
音声学	4				
英語史	4				
シェイクスピア	4				

※ 「文学史」は2科目選択必修とし、残り1科目を専門選択科目として履修できない。

B. 57年度以前入学生適用 (32単位)

2年次必修			2年次または3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		文学史(英米文学史 I) (英米文学史 II) (米文学史)	4	1科目選択必修
3年次必修					
音声学	4	旧英語学研究	3年次または4年次必修		
英語史	4		批評論研究	4	
4年次必修			シェイクスピア	4	
卒業論文	8	14頁参照			

選択科目

A. 58年度以降入学生適用 (36単位以上)

B. 57年度以前入学生適用 (40単位以上)

授業科目	単位	履修年次	備考	授業科目	単位	履修年次	備考
英文学史 I	4	2・3・4	※イ 必修とした科目 外を履修すること	英文学演習Ⅰ (中世)	4	3・4	
英文学史 II	4	2・3・4		英文学演習Ⅱ (英文学16, 17 c.)	4	3・4	※ホ
米文学史	4	2・3・4		英文学演習Ⅳ (英文学18 c.)	4	3・4	休講
英文学特講Ⅰ (英文学16, 17 c.)	4	3・4		英文学演習Ⅴ (詩19, 20 c.)	4	2・3・4	
英文学特講Ⅱ (英文学18 c.)	4	3・4	休講	英文学演習Ⅵ (小説Ⅰ19 c.)	4	3・4	
英文学特講Ⅲ (詩19, 20 c.)	4	2・3・4		英文学演習Ⅶ (小説Ⅱ20 c.)	4	2・3・4	
英文学特講Ⅳ (小説Ⅰ19 c.)	4	2・3・4		英文学演習Ⅷ (批評19, 20 c.)	4	3・4	
英文学特講Ⅴ (小説Ⅱ20 c.)	4	2・3・4		米文学演習Ⅰ (詩)	4	2・3・4	
英文学特講Ⅵ (批評19, 20 c.)	4	3・4		米文学演習Ⅱ (小説Ⅰ)	4	2・3・4	
米文学特講Ⅰ (詩)	4	2・3・4		米文学演習Ⅲ (小説Ⅱ)	4	3・4	
米文学特講Ⅱ (小説Ⅰ)	4	2・3・4		米文学演習Ⅳ (小説Ⅲ)	4	2・3・4	
米文学特講Ⅲ (小説Ⅱ)	4	2・3・4		米文学演習Ⅴ (批評)	4	3・4	
米文学特講Ⅳ (小説Ⅲ)	4	2・3・4		英米演劇演習	4	2・3・4	※へ
米文学特講Ⅴ (批評)	4	3・4		時事英語	4	2・3・4	旧英米 時文研究
英米演劇特講	4	2・3・4	※ロ	商業英語	4	3・4	
英作文Ⅰ	4	3・4	※ハ	ラテン語特講	4	2・3・4	
英米語学演習 (英語学)	4	3・4		英米文化	4	2・3・4	旧外国文学
英米語学演習 (英語史)	4	3・4		日本文化史Ⅰ	4	2・3・4	} 隔年開講 休講
英米語学演習 (英文法)	4	3・4		日本文化史Ⅱ	4	2・3・4	
英米語学演習 (英作文Ⅱ)	4	3・4	※ニ	現代美術	4	2・3・4	
英米語学演習 (英会話)	2	3・4					

※イ 57年度以前入学生適用

※ロ 57年度以前入学生で「英文学特講Ⅶ(演劇19, 20 c.)」・「米文学特講Ⅵ(演劇)」をいずれか修得した者は、「英米演劇特講」を履修できない。

※ハ 57年度以前入学生適用 旧「英米語学演習(英作文)」

※ニ 58年度以降入学生適用

※ホ 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅱ(英文学16 c.)」・「英文学演習Ⅲ(英文学17 c.)」をいずれか修得した者は、「英文学演習Ⅱ(英文学16, 17 c.)」を履修できない。

※へ 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅸ（演劇19,20c.）」・「米文学演習Ⅵ（演劇）」をいずれか修得した者は、「英米演劇演習」を履修できない。

（注意） 同一科目は再度履修しても単位にはならない。

◇演習科目のとりかた

- I (a) 2, 3, 4年次に演習1科目（4単位）ずつ、あわせて3科目（12単位）を極力履修すること。
 (b) 2年次で履修しうる演習科目は1科目とする。
 (c) 3年次で履修しうる演習科目は3科目以内とする。
 (d) 4年次で履修しうる演習科目は2科目以内とする。
- II (a) 各演習科目とも先着約50名で締切る。なお、教務部に「単位履修届」を提出する前に、受講希望の科目担任の先生に本人が直接届出て「単位履修届」に捺印を受けること。
 (b) 担任の先生に届出る日・時・場所については教務部の掲示板に掲示するので注意すること。
 (c) 57年度以前入学生で（旧）「英米語学演習（英作文）」の履修希望者は、「英作文Ⅰ」を履修すること。なお、その場合「英作文Ⅰ」の4講座のいずれかひとつを選択し、担任の先生に本人が直接届出て「単位履修届」に捺印を受けること。捺印の日時は、他の演習科目と同じとする。

地理学科

必修科目〔24単位〕

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (14頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※ 「地理学総論」は「地理学研究法および地理学史」の名称変更。

（注意） 「地理学演習」および「野外巡検（Ⅰ・Ⅱ）」の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

選択科目（48単位以上）

2年次選択			3年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
地形学Ⅰ	4		歴史地理学	4	
集落地理学	4		人口地理学	4	
郷土地理学	4		経済地理学Ⅱ	4	
経済地理学Ⅰ	4		原書講読	4	
交通地理学	4		日本地誌Ⅱ	4	休講
地図学	4	旧地図学概説	外国地誌Ⅱ	4	
日本地誌Ⅰ	4		地理学特講Ⅰ	2	
外国地誌Ⅰ	4		3・4年次選択		
3年次選択			文化地理学	4	
地質学	4		都市地理学	4	
地球物理学	4	休講	計量地理学	4	
地形学Ⅱ	4		空中写真判読法及び測量学	4	
気候学	4		日本地誌Ⅲ	4	
土壌地理学	4		外国地誌Ⅲ	4	
海洋学及び陸水学	4		応用地理学Ⅰ	4	
環境地理学	4		応用地理学Ⅱ	4	

（注意） 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

◎測量士補資格について

地理学科の学生で、地図学、空中写真判読法及び測量学、自然地理学実習、地理学演習を修得し、さらに地形学、地質学、地球物理学、応用地理学Ⅰ、Ⅱのうち2科目を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1ヵ年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（1年次の秋頃に各自専攻コースを届出ること）

必修科目（40単位）（2年次以降の履修科目）

○日本史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ（古中代世）	4	2科目8単位選択必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ（近近代世）	4	
日本史概説Ⅰ（古中代世）	4		西洋史概説Ⅰ（古中代世）	4	
日本史概説Ⅱ（近近代世）	4		西洋史概説Ⅱ（近近代世）	4	
演 習 Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考古学）で代替できる	考古学概説Ⅰ（日本）	4	
演 習 Ⅱ（日本史）	4		考古学概説Ⅱ（外国）	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ（古中代世）	4	2科目8単位選択必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ（近近代世）	4	
日本史概説Ⅰ（古中代世）	4		西洋史概説Ⅰ（古中代世）	4	
日本史概説Ⅱ（近近代世）	4		西洋史概説Ⅱ（近近代世）	4	
演 習 Ⅰ（日本史）	4	演習Ⅰ（考古学）で代替できる	考古学概説Ⅰ（日本）	4	
演 習 Ⅱ（日本史）	4		卒 業 論 文	8	

○東洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中代世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近近代世)	4	
東洋史概説Ⅰ (古中代世)	4		西洋史概説Ⅰ (古中代世)	4	
東洋史概説Ⅱ (近近代世)	4		西洋史概説Ⅱ (近近代世)	4	
演 習 Ⅰ (東洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ (東洋史)	4		考古学概説Ⅱ(外国)	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中代世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近近代世)	4	
東洋史概説Ⅰ (古中代世)	4		西洋史概説Ⅰ (古中代世)	4	
東洋史概説Ⅱ (近近代世)	4		西洋史概説Ⅱ (近近代世)	4	
演 習 Ⅰ (東洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ (東洋史)	4		卒 業 論 文	8	

○西洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中代世)	4	2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近近代世)	4	
西洋史概説Ⅰ (古中代世)	4		東洋史概説Ⅰ (古中代世)	4	
西洋史概説Ⅱ (近近代世)	4		東洋史概説Ⅱ (近近代世)	4	
演 習 Ⅰ (西洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ (日 本)	4	
演 習 Ⅱ (西洋史)	4		考古学概説Ⅱ (外 国)	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古中代世)	4	2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近近代世)	4	
西洋史概説Ⅰ (古中代世)	4		東洋史概説Ⅰ (古中代世)	4	
西洋史概説Ⅱ (近近代世)	4		東洋史概説Ⅱ (近近代世)	4	
演 習 Ⅰ (西洋史)	4	演習Ⅰ(考古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ (日 本)	4	
演 習 Ⅱ (西洋史)	4		卒 業 論 文	8	

○考古学専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	} 2科目8 単位選択 必修
考 古 学 史	4		日本史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
考古学概説Ⅰ (日 本)	4		東洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
考古学概説Ⅱ (外 国)	4		東洋史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
演 習 Ⅰ (考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅰで代 替えできる	西洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
演 習 Ⅱ (考古学)	4		西洋史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
			卒 業 論 文	8	14頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	} 3科目12 単位選択 必修
考古学概説Ⅰ (日 本)	4		日本史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
演 習 Ⅰ (考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅰで代 替えできる	東洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
演 習 Ⅱ (考古学)	4		東洋史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
日 本 史 学 史	4	} 1科目4 単位選択 必修	西洋史概説Ⅰ (古 中 代 世)	4	
東 洋 史 学 史	4		西洋史概説Ⅱ (近 近 代 世)	4	
西 洋 史 学 史	4		卒 業 論 文	8	14頁参照

選択科目（32単位以上）（2年次以降の履修科目）

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
日本史各説 I	4		東洋史特講 I (古代)	4	旧 東洋史特講 VII
日本史各説 II	4		東洋史特講 II (古代)	4	休講
日本史各説 III	4		東洋史特講 III (古代)	4	休講
日本史各説 IV	4		東洋史特講 IV (中世)	4	
東洋史各説 I (古代)	4	旧 東洋史各説 II 休講	東洋史特講 V (中世)	4	休講
東洋史各説 II (古代)	4		東洋史特講 VI (中世)	4	旧 東洋史特講 III・VI 休講
東洋史各説 III (中世)	4	旧 東洋史各説 I 休講	東洋史特講 VII (近世)	4	
東洋史各説 IV (中世)	4		東洋史特講 VIII (近世)	4	休講
東洋史各説 V (近世)	4	旧 東洋史各説 III 休講	東洋史特講 IX (近世)	4	休講
東洋史各説 VI (近世)	4		東洋史特講 X (近現代)	4	
東洋史各説 VII (近現代)	4	休講	東洋史特講 XI (近現代)	4	旧 東洋史特講 IV
東洋史各説 VIII (近現代)	4		東洋史特講 XII (近現代)	4	旧 東洋史特講 II 休講
東洋史各説 IX (周辺史)	4	旧 東洋史各説 IV	東洋史特講 XIII (周辺史)	4	旧 東洋史特講 V
東洋史各説 X (周辺史)	4	旧 東洋史各説 II (59年度光瀧担当分)	東洋史特講 XIV (周辺史)	4	旧 東洋史特講 I
西洋史各説 I	4		東洋史特講 XV (周辺史)	4	休講
西洋史各説 II	4		西洋史特講 I	4	
西洋史各説 III	4		西洋史特講 II	4	休講
西洋史各説 IV	4	休講	西洋史特講 III	4	
考古学各説 I	4	休講	西洋史特講 IV	4	
考古学各説 II	4	休講	西洋史特講 V	4	休講
考古学各説 III	4		西洋各国史 I	4	
考古学各説 IV	4		西洋各国史 II	4	
日本史特講 I (古代)	4		西洋各国史 III	4	
日本史特講 II (中世)	4		西洋各国史 IV	4	
日本史特講 III (中世)	4		考古学特講 I	4	休講
日本史特講 IV (近世)	4		考古学特講 II	4	
日本史特講 V (近世)	4	休講	考古学特講 III	4	休講 } 隔年講
日本史特講 VI (近代)	4		考古学特講 IV	4	
日本史特講 VII (近代)	4		古文書学	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
古文書講読Ⅰ	4		人文地理学概説	4	
古文書講読Ⅱ	4		地 誌 学	4	
日本仏教史Ⅰ	4	休講 } IとIIIは 隔年開講	哲 学 史	4	
日本仏教史Ⅱ	4		歴 史 哲 学	4	
日本仏教史Ⅲ	4		仏 教 美 術	4	
日本文化史Ⅰ	4	休講 } 隔年開講	西域美術史	4	
日本文化史Ⅱ	4		美術史概説	4	
西洋文化史Ⅰ	4		ラテン語特講	4	
西洋文化史Ⅱ	4	休 講	演 習 Ⅰ	4	(注)
西洋文化史Ⅲ	4		演 習 Ⅱ	4	
考古学実習Ⅰ(写真)	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
考古学実習Ⅱ(記録)	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
考古学実習Ⅲ(測量)	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
考古学実習Ⅳ(調査)	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
考古発掘実習	2		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
有 職 故 実	4	休 講	西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
中国歴史文学	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
日本民俗学	4		考古学概説Ⅱ(外国)	4	
歴史地理学	4				

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※55年度以前入学生は「考古学概説Ⅱ(外国)」を履修することはできない。

[名称変更科目]

○新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはいけません。

○成績表は、59年度発表分では旧名称で、60年度からは新名称で打出される。

新名称	旧名称	新名称	旧名称
東洋史特講Ⅰ(古 代)	一東洋史特講Ⅶ(古代史)	東洋史各説Ⅰ(古 代)	一東洋史各説Ⅱ
東洋史特講Ⅵ(中 世)	一東洋史特講Ⅲ (中世史)・Ⅵ(中世史)	東洋史各説Ⅲ(中 世)	一東洋史各説Ⅰ
東洋史特講Ⅺ(近現代)	一東洋史特講Ⅳ (近代・現代史)	東洋史各説Ⅴ(近 世)	一東洋史各説Ⅲ
東洋史特講Ⅻ(近現代)	一東洋史特講Ⅱ (近世・近代史)	東洋史各説Ⅸ(周辺史)	一東洋史各説Ⅳ
東洋史特講Ⅼ(周辺史)	一東洋史特講Ⅴ (西・中央アジア史)	東洋史各説Ⅹ(周辺史)	一東洋史各説Ⅱ (59年度光嵐担当分)
東洋史特講Ⅽ(周辺史)	一東洋史特講Ⅰ (中国周辺史)		

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届出ること）

(1) 社会学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用（56単位）

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	休講 5科目20単位選択必修
社会学史	4		産業社会学	4	
社会学方法論	4		都市社会学	4	
3年次必修			農村社会学	4	
社会調査	4		家族社会学	4	
社会調査実習	4		法社会学	4	
演習 I	4	社会	宗教社会学	4	
4年次必修			社会心理学	4	
演習 II	4	社会	社会病理学	4	
卒業論文	8	14頁参照	外書講読 I	4	
			外書講読 II	4	
			社会学特講 I	4	
			社会学特講 II	4	
			社会学特講 III	4	休講

(注意) 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（40単位）

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		演 習 I	4	社会
社 会 学 原 論	4		4 年 次 必 修		
社 会 統 計 学	4		社 会 政 策	4	
宗 教 社 会 学	4		演 習 II	4	社会
3 年 次 必 修			卒 業 論 文	8	14頁参照
社 会 調 査	4				

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを，卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（32単位以上）

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会学方法論	4		労働法	4	
マスコミュニケーション	4		経済原論	4	
産業社会学	4		社会学特講Ⅰ	4	旧社会学特講
都市社会学	4		社会学特講Ⅱ	4	
農村社会学	4	休講	社会学特講Ⅲ	4	休講
家族社会学	4		社会福祉法制	4	
法社会学	4		社会保障概論	4	
社会心理学	4		老人福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		児童福祉論	4	
外書講読Ⅱ	4		地域福祉論	4	
2・3・4年次選択			基礎心理学Ⅰ	4	
図書館学Ⅰ	4		産業心理学	4	
図書館学Ⅱ	4		社会福祉方法総論	4	
グループ・ダイナミクス	4	旧 集団理論	3・4年次選択		
行政法	4		社会病理学	4	
民法	4		社会調査実習	4	旧 社会調査実習Ⅰ

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (56単位)

2 年 次 必 修			2・3・4 年 次 必 修			
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考	
社会 保 障 概 論	4		A 群	公 的 扶 助 論	4	A群とB群より、それぞれ3科目ずつ取得、合計6科目24単位選択必修
社会 福 祉 法 制	4			障 害 福 祉 論	4	
社会福祉方法総論	4			老 人 福 祉 論	4	
3 年 次 必 修				児 童 福 祉 論	4	
社会福祉実習Ⅰ	4			母 子 福 祉 論	4	
演 習 Ⅰ	4	福祉		医 療 社 会 事 業 論	4	
4 年 次 必 修			B 群	地 域 福 祉 論	4	
演 習 Ⅱ	4	福祉		社会福祉事業発達史	4	
卒 業 論 文	8	14頁参照		社会福祉管理運営論	4	
				福 祉 外 書 講 読	4	
				リハビリテーション論	4	

※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	(注)	宗教社会学	4	
障害福祉論	4		産業社会学	4	
老人福祉論	4		都市社会学	4	
児童福祉論	4		農村社会学	4	休講
母子福祉論	4		家族社会学	4	
医療社会事業論	4		法社会学	4	
地域福祉論	4		社会病理学	4	
社会福祉事業発達史	4		障害児教育原論	4	旧 異常児教育原論
社会福祉管理運営論	4		障害児教育方法論	4	旧 異常児教育方法論
福祉外書講読	4		障害児病理	4	旧 異常児病理 休講
リハビリテーション論	4		障害児心理	4	旧 異常児心理 休講
ケースワーク論	4	図書館学 I	4		
グループワーク論	4	図書館学 II	4		
海外社会福祉論	4	社会政策	4		
社会福祉学特講 I	4	青少年問題研究	4		
社会福祉学特講 II	4	行政法	4		
社会福祉学特講 III	4	労働法	4		
基礎心理学 I	4	民法	4		
基礎心理学 II	4	経済原論	4		
社会心理学	4	4年次選択			
グループ・ダイナミックス	4	社会福祉実習 II	4		

(注意) ※ 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※ 「社会福祉実習 II」を履修する者は「社会福祉実習 I」取得者に限る。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（44単位）

※ ただし53年度以前入学生は48単位必修とする。

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		社 会 福 祉 実 習 I	4	旧 社会福祉 実習
社 会 学 原 論	4		演 習 I	4	福祉
社 会 福 祉 法 制	4		4 年 次 必 修		
社 会 福 祉 概 論	4	53年度以前 の入学生のみ必修	社 会 政 策	4	
3 年 次 必 修			演 習 II	4	福祉
社 会 調 査	4		卒 業 論 文	8	14頁参照
社 会 福 祉 事 業 発 達 史	4	旧社会福祉 事業史			

（注意）※ 「社会福祉概論」は54年度以降入学生より基礎教育科目とする。

※ 「演習」は3年次で履修した先生のものを，卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（28単位以上）

※ ただし53年度以前入学生は24単位以上とする。

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会保障概論	4	旧社会保障論	グループ・ダイナミックス	4	
児童福祉論	4		宗教社会学	4	
老人福祉論	4		産業社会学	4	
地域福祉論	4		都市社会学	4	
ケースワーク論	4	旧ケース・ワーク論	農村社会学	4	休講
グループワーク論	4	旧グループ・ワーク	法社会学	4	
基礎心理学Ⅱ	4	旧精神発達学	図書館学Ⅰ	4	
社会心理学	4		図書館学Ⅱ	4	
家族社会学	4		民法	4	
障害児教育原論	4	旧異常児教育原論	経済原論	4	
2・3・4年次選択			行政法	4	
公的扶助論	4		労働法	4	
母子福祉論	4		青少年問題研究	4	
医療社会事業論	4	旧医療社会事業	障害児病理	4	旧異常児病理 休講
リハビリテーション論	4		障害児心理	4	旧異常児心理 休講
福祉外書講読	4	旧外書講読Ⅲ	障害福祉論	4	
海外社会福祉論	4		3・4年次選択		
社会福祉方法総論	4		障害児教育方法論	4	旧異常児教育 方法論
社会福祉管理運営論	4		社会病理学	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4	旧社会福祉特講Ⅰ			
社会福祉学特講Ⅱ	4	旧社会福祉特講Ⅱ			
社会福祉学特講Ⅲ	4	旧社会福祉特講Ⅲ			
基礎心理学Ⅰ	4				

(3) 心理学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心 理 学 研 究 III (実 習)	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修 休 講
心 理 統 計 学	4		心 理 学 研 究 IV (実 習)	2	
心 理 学 実 験 (実 習)	2		心 理 学 研 究 V (実 習)	2	
基 礎 心 理 学 I	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	心 理 学 研 究 VI (実 習)	2	1 科 目 4 単 位 選 択 2 必 修 で は し 年 次 ま た は 履 修 目 選 択 た 科 履 修 を 履 修 と す る こ
基 礎 心 理 学 II	4		基 礎 心 理 学 I	4	
基 礎 心 理 学 III	4		基 礎 心 理 学 II	4	
基 礎 心 理 学 IV	4		基 礎 心 理 学 III	4	
基 礎 心 理 学 V	4		基 礎 心 理 学 IV	4	
3 年 次 必 修			基 礎 心 理 学 V	4	
心 理 学 研 究 法	4		4 年 次 必 修		
心 理 学 研 究 I (実 習)	2		演 習	4	
心 理 学 研 究 II (実 習)	2		卒 業 論 文	8	14 頁 参 照

(注意) 基礎心理学 I～V の内容については講義内容欄を参照のこと。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（36単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基 礎 心 理 学 I	4	必修として履修した科目以外を履修すること	心 理 学 特 講 II	4	
基 礎 心 理 学 II	4		心 理 学 特 講 III	4	
基 礎 心 理 学 III	4		精 神 医 学	4	
基 礎 心 理 学 IV	4		精 神 病 理 学	4	休講
基 礎 心 理 学 V	4		心 身 医 学	4	
心理学研究 I（実習）	2	3・4年次選択 3年次で必修とした科目以外を履修すること 休講	宗 教 社 会 学	4	
心理学研究 II（実習）	2		産 業 社 会 学	4	
心理学研究 III（実習）	2		家 族 社 会 学	4	
心理学研究 IV（実習）	2		社 会 病 理 学	4	
心理学研究 V（実習）	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究 VI（実習）	2		社 会 福 祉 方 法 総 論	4	
生 理 心 理 学	4		障 害 福 祉 論	4	
児 童 心 理 学	4		老 人 福 祉 論	4	
産 業 心 理 学	4		児 童 福 祉 論	4	
グループ・ダイナミクス	4		民 法	4	
カウンセリング	4		経 済 原 論	4	
心 理 検 査 法	4		行 政 法	4	
禅 心 理 学	4		労 働 法	4	
心 理 学 特 講 I	4				

（注意）2年次における基礎心理学I～Vの選択科目としての履修は、3科目以内とする。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用 (46単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基 礎 心 理 学 I	4	旧 人 格 心 理 学	心 理 学 研 究 IV (実 習)	2	旧 心 理 学 実 験 演 習 (上 級) 1 科 目 2 単 位 選 択 必 修
グ ル ー プ ・ ダイ ナ ミ ッ ク ス	4	旧 集 団 理 論	心 理 学 研 究 V (実 習) 休 講	2	
精 神 医 学	4		心 理 学 研 究 VI (実 習)	2	
心 理 学 実 験 (実 習)	2	旧 心 理 学 実 験 演 習 (初 級)	心 理 学 特 講 I	4	旧 臨 床 心 理 学 II (方 法)
3 年 次 必 修			4 年 次 必 修		
基 礎 心 理 学 III	4	旧 学 習 行 動 理 論	心 理 検 査 法	2	旧 臨 床 実 習
基 礎 心 理 学 V	4	旧 臨 床 心 理 学 I (理 論)	演 習	4	
心 理 学 研 究 I (実 習)	2		卒 業 論 文	8	14 頁 参 照
心 理 学 研 究 II (実 習)	2				
心 理 学 研 究 III (実 習)	2				

※ 「心理学実験演習（上級）」を既に修得している場合は、成績表には「心理学研究 I（実習）」として記載する。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（26単位以上）

（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基 礎 心 理 学 II	4	旧 精神発達 学	精 神 病 理 学	4	休講
基 礎 心 理 学 IV	4	旧 社会心理 学	心 身 医 学	4	旧 精神身体 医学
心理学研究 I (実習)	2	※3・4 年次選択 旧 心理 学実験演 習(上級) 3年次で 必修とし た科目以 外を履修 すること	宗 教 社 会 学	4	
心理学研究 II (実習)	2		産 業 社 会 学	4	
心理学研究 III (実習)	2		家 族 社 会 学	4	
心理学研究 IV (実習)	2		社 会 病 理 学	4	
心理学研究 V (実習) 休講	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究 VI (実習)	2		社 会 福 祉 方 法 総 論	4	
生 理 心 理 学	4	旧 精神生理 学	障 害 福 祉 論	4	
児 童 心 理 学	4		老 人 福 祉 論	4	
産 業 心 理 学	4		児 童 福 祉 論	4	
カ ウ ン セ リ ン グ	4		行 政 法	4	
禅 心 理 学	4		民 法	4	
心 理 学 特 講 II	4		労 働 法	4	
心 理 学 特 講 III	4		経 済 原 論	4	

※ 「心理学実験演習（上級）」を既に修得した者は、「心理学研究 I（実習）」は履修できない。

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することが出来るが卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
ド イ ツ 語 F	2		哲 学 特 講 I, II	4	
フ ラ ン ス 語 F	2		宗 教 人 類 学	4	
中 国 語 F	2		民 間 信 仰 論	4	
ス ペ イ ン 語 F	2		日 本 宗 教 文 化 史	4	
ロ シ ア 語 F	2		民 衆 宗 教 成 立 史	4	
日 本 語 F	2	(初級・中級)	歴 史 哲 学	4	歴史学科を除く
ド イ ツ 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 民 俗 学	4	国文, 歴史学科を除く
フ ラ ン ス 語 FLL	2	(初級・中級)	美 術 史 概 説	4	国文, 歴史学科を除く
中 国 語 FLL	2	(初級・中級)	東 洋 思 想 研 究	4	国文学科を除く
ス ペ イ ン 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 仏 教 史	4	歴史学科を除く
ロ シ ア 語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 文 化 史	4	地理, 社会学科のみ
宗 教 学 特 講 I, II, III	4				

※ 日本語Fは外国人留学生のみを対象とする科目で1年次生より履修できる

※ 歴史哲学は歴史思想史の名称変更

※ 民衆宗教成立史は民衆仏教成立史の名称変更

7. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）

ハ. 再履修の科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技Ⅰ（59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字の意味を持たせている。

(a) 科目コードの区分



(b) 学部、学科番号は学生番号欄での説明のとおりである。

(c) 系列、分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一般教育科目	0	
人 文 分 野		1(必修), 2(選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基礎教育科目	1	2
外国語科目	2	
第 1 外国語		
第 2 外国語		
保健体育科目	4	
実 技		1
講 義		2
専門教育科目	5	
必 修 科 目		1, 2, 3
選 択 科 目		5, 6, 7, 8
随 意 科 目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3, 4, 5, 6, 7, 8

2. 学生番号について

学生番号は8桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせている。

この学生番号は入学から卒業まで学籍異動（原級・転部科など）がない限り変わらない。学内での事務処理はほとんど学生番号で処理されるので、正確に覚えておくこと。

学生番号のみかた

学生番号区分				学籍異動の番号			
□	□	□	□	□	□	□	□
⋮ 入学 年度 (西暦)	⋮ 学籍 異動	⋮ 学 部	⋮ 学 科	⋮ 一連番号 (原級のつど変わる)			
				0…異動なし	1…原級	2…転部(科)	3…編入
				4…原級して転部(科)			転部(科)・編入をして原級

学部・学科の番号

学部・学科名	学部番号	学科番号	学部・学科名	学部番号	学科番号
仏教学部	1		法学部	4	
禅学科		1	法律学科		1
仏教学科		2	政治学科		2
文学部	2		経営学部	5	
国文学科		1	経営学科		1
英米文学科		2	短期大学	8	
地理学科		3	国文科		1
歴史学科		4	英文科		2
社会学科		5	放射線科		3
経済学部	3				
経済学科		1			
商学科		2			

(例)

5 0 2 1 0 0 1 2
 ⋮ ⋮ ⋮ ⋮ ⋮
 一九八五年入学 学籍異動なし 文学部 国文学科 12番

(1985年度入学・文学部国文学科12番)

Ⅳ 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次、所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要な事項を記入し届出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表の通りとする。

	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	15	—
2年次	14科目以内	17科目以内
3年次	14科目以内	17科目以内
4年次	1科目以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ・随意科目は上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けませんが、卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口相談すること）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日				
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時限	ドイツ語1G	212201	百 済	879
	~~~~~			
二時限	保健体育理論(前)	214201	長 浜	993
	保健体育理論(後)	214201		622
	~~~~~			
三時限	宗 教 学 I	210101	平井(俊)	735
	~~~~~			
四時限	論 理 学	210203	国 嶋	306
	~~~~~			
	~~~~~			
五時限	自然科学概論	210401	宇和川	104
	~~~~~			

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
月 (1)	1		ドイツ語1G	212201	百 済	879
	2		保健体育理論(前)	214201	長 浜	993
	3		宗 教 学 I	210101	平井(俊)	735
	4	○	論 理 学	210203	国 嶋	306
	5		自然科学概論	210401	宇和川	104

1. 楷書体で正確に記入すること。
2. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
3. 授業時間表のとおり記入すること。
4. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
5. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
6. 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - イ. 科目名・科目コード、担任名・担任コードが一致しない場合
 - ロ. 時限を誤って記入した場合
 - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例, 0と6・1と7)
 - ニ. その他、不明瞭に記入した場合
7. 体育実技の記入方法は、時間表に載っている、科目コード・担任コードを正しく記入すること。
8. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
9. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

（国文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学1（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技I（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読1（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 社会分野 自然分野 開講科目の中から計4科目選択必修 （不足単位は2年次で履修）	4
1年次履修制限科目数			15

（英米文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学1（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技I（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語IA，IB（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			15

(地理学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎自然地理学, 基礎人文地理学 (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(歴史学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(社会学科)

順序	授業区分	授業科目 (適用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学 I (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論 (半期), 体育実技 I (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉概論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から計5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月から2月にかけて実施される。
- ロ. 試験を受験できる科目は、正規の手続を経て履修登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示を十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が中間考査として任意に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追再試験

I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

1, 2, 3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技、演習、その他実験実習を伴う科目は、追、再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追、再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 受 験 心 得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日, 時, 試験場(教場)で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中, 机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し, 受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部, 学科, 学生番号, 氏名の記入はペン又はボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し, 試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場(教場)においては, すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場(教場)の秩序を乱したり, 試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は, 「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり, 又は代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート, テキスト, 参考書, 六法, 辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり, 書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作, メモその他の方法で連絡をしたり, 連絡を受けること。
 - (6) 試験中ノート, テキスト, 参考書, 六法, 辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり, すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は, 優(100点~80点), 良(79点~70点), 可(69~60点)および不可(59点~0点)とし, 優, 良, 可を合格, 不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し, 合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験(4年次生のみ)の成績評価は良(70点)以下とする。

試験実施規程(抜萃)が(P64)掲載されているので参照のこと。

Ⅵ 進級について

上級学年に進級するためには進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級及び注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

○ 注意進級とは進級の基準単位数には達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。

これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。

○ 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
59年度以前入学生 進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注意進級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～16単位不足している場合。
原級留置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が17単位以上不足している場合。
60年度以降入学生 進 級	30単位以上	60単位以上	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目を全て修得していること。
注意進級	29～20単位	59～50単位	90単位以上修得し、一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が1～12単位不足している場合。
原級留置	19単位以下	49単位以下	89単位以下。又は90単位以上修得しているが一般教育科目、保健体育科目、外国語科目が13単位以上不足している場合。

○ 59年度以前入学生についても昭和62年度から「60年度以降入学生適用の進級規程」を一斉に適用するので計画的に単位を修得しておく必要がある。

進級規程及び進級基準が（P66）掲載されているので参照のこと。

Ⅶ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
- ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅷ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得の課程・講座は、教職課程、学校図書館司書教諭講座、博物館学講座、社会福祉主事講座および社会教育主事講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したものは、中学校1級・高等学校2級の各普通免許状が取得できる。

学校図書館司書教諭、博物館学、社会福祉主事および社会教育主事の各講座は、学校教育を充実することを目的とする学校図書館、社会教育の場として十分に利用され、その目的、使命を達成する博物館、社会福祉を増進させるための機関等および青少年に対して行われる組織的な教育活動である教育施設の各専門職員となる有資格者を養成するために設けられている。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋（11月中旬）に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

（授業科目の講義内容は当該履修要項の講義内容を参照すること。）

なお、ガイダンスの日時等については、実施1カ月前より掲示板で、その旨指示する。

○開講されている課程・講座

課 程 ・ 講 座	備 考
教 職 課 程	2年次より
学校図書館司書教諭講座	〃
博 物 館 学 講 座	〃
社 会 福 祉 主 事 講 座	〃
社 会 教 育 主 事 講 座	〃

IX 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。
ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口に申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在国電（山手，中央，京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問 い 合 わ せ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

X 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類		要 領	必要書類	本人印	保証人印	取扱窓口
届 書	単 位 履 修 届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	⑨
	卒業論文論題届	掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑥
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本一通添付	要	不要	⑤
	本籍地変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	⑤
	保証人変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	⑤
	保証人住所変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	⑤
	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	⑤
願 書	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2ヵ月以上修学することができない場合は、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	⑤
	復 学 願	休学した者が復学する場合は、毎学年の始め、保証人連署の上願い出て許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月7日までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	⑤
	退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	⑤
	転部・転科願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり	要	要	⑦

XI 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	一通 100円 (英文証明書) 一通 300円
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教 員 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	無 料
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口
に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として3日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から10月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分
余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜萃）

（昭和59年7月13日制定）

（目 的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
- (2) 追加試験（以下「追試験」という。） 病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
- (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
- (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担任者が中間審査として行う試験をいう。

2 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。

3 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。

- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
- (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
- (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担任者の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

- 2 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
- 3 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
- 4 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

- 1 この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

進級規程

(昭和51年4月1日制定)

昭和59年12月18日改正

(目的)

第1条 この規程は、駒沢大学学則第14条に基づき、学生が上級学年に進級するために必要な修得単位数の基準を定めることを目的とする。

(進級基準単位数)

第2条 学生が上級学年に進級するときは、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得していなければならない。

- (1) 1年から2年に進級するときは、30単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年に進級するときは、60単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年に進級するときは、仏教学部、文学部、経済学部、経営学部、経済学部第2部、法学部第2部、経営学部第2部においては90単位以上、法学部においては99単位以上を修得していること。ただし、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の所要単位をすべて修得していなければならない。

(注意進級基準単位数)

第3条 前条の規定にかかわらず、卒業所要単位数のうち、次の各号の一に該当する単位数を修得しているときは、本人に注意を喚起し、上級学年への進級を認めることができる。

- (1) 1年から2年への進級を認めるときは、20単位以上修得していること。
- (2) 2年から3年への進級を認めるときは、50単位以上修得していること。
- (3) 3年から4年への進級を認めるときは、次に掲げる条件の一に該当していること。

ア 仏教学部、文学部、法学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

イ 経済学部、経営学部、経済学部第2部、経営学部第2部においては、90単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が16単位以下であること。

ウ 法学部においては、99単位以上を修得し、かつ、一般教育科目、外国語科目及び保健体育科目の未修得単位の合計が12単位以下であること。

(原級)

第4条 修得単位数の合計が、注意進級基準単位数に達しない者は、原級に留め置くものとする。

附 則

この規程は、昭和60年4月1日から施行し、昭和60年度入学生から適用する。ただし、昭和59年度以前の入学生については、昭和62年3月31日までは、なお、従前の進級基準によるものとする。

進 級 基 準

この基準は、駒沢大学学則第14条に基づき、上級学年に進級する場合の基準を次のように定める。

(正規進級)

第1条 上級学年に正規進級する場合は、下記の単位数の取得を要する。

1. 1年から2年に進級する場合、卒業所要単位のうち、30単位以上。
2. 2年から3年に進級する場合、卒業所要単位のうち、60単位以上。
3. 3年から4年に進級する場合、卒業所要単位のうち、90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

(注意進級)

第2条 正規の進級基準には、達しないが教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が、再度つづく場合には、取得単位の不足から、4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

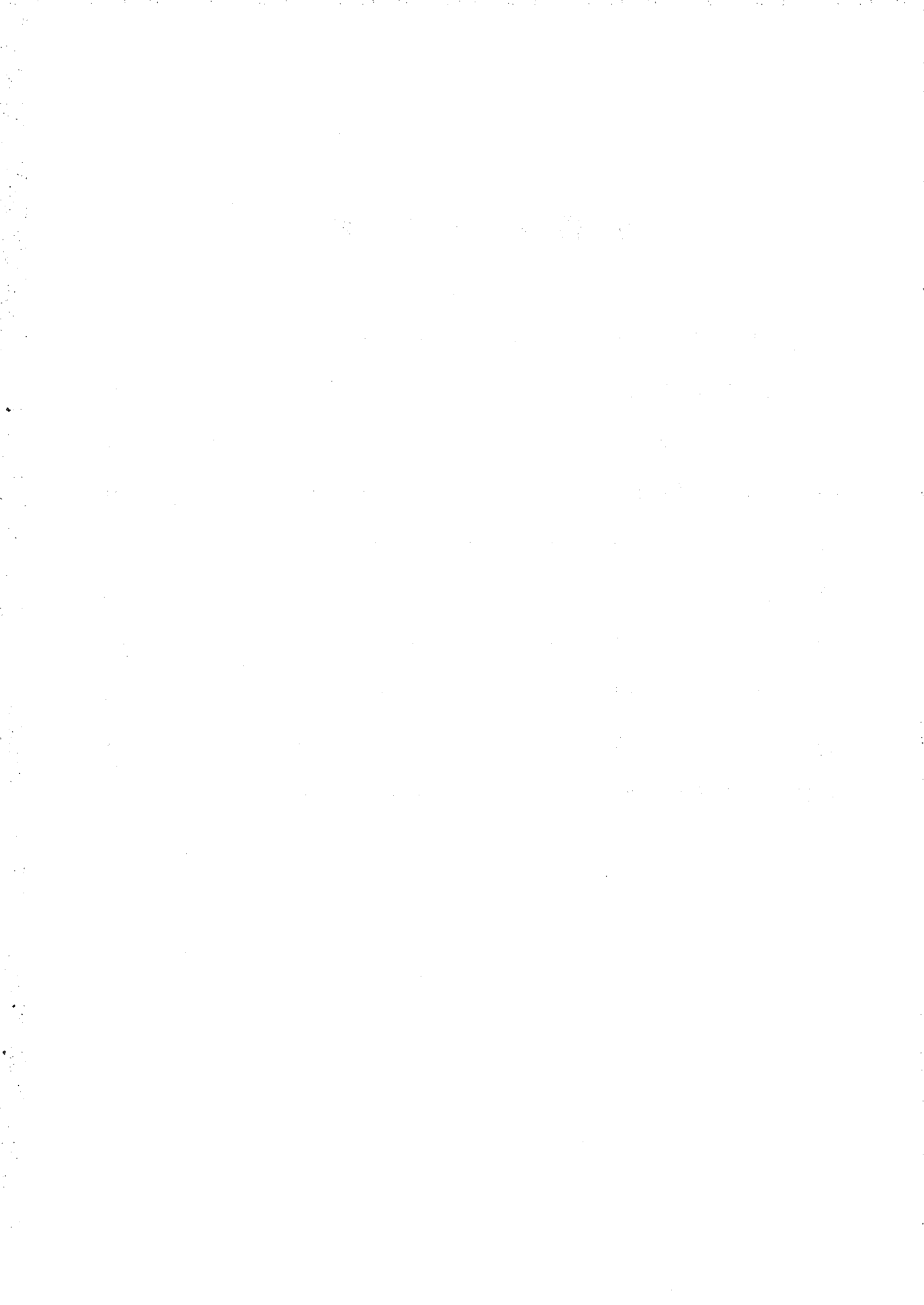
1. 1年から2年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
2. 2年から3年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
3. 3年から4年に注意進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上を取得するも、その内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が1～16単位までとする。

付 則

この基準は、昭和51年4月1日より施行する。

講義内容目次

一般教育科目(共通).....	(71)
外国語科目(共通).....	(77)
保健体育科目(共通).....	(78)
随意科目(共通).....	(81)
国文学科.....	(85)
英米文学科.....	(95)
地理学科.....	(104)
歴史学科.....	(114)
社会学科.....	(129)
教職および資格講座.....	(143)



一般教育科目 (共通)

人文分野

宗教学 I (佐々木宏幹)	72
宗教学 I (洗 建)	72
宗教学 I (脇本 平也)	72
宗教学 I (山岡 隆晃)	72
宗教学 I (再クラス) (岡部 和雄)	72
宗教学 I (再クラス) (奈良 康明)	72
宗教学 II (青龍 宗二)	72
宗教学 II (峯岸 孝哉)	73
宗教学 II (河村 孝道)	73
宗教学 II (若月 正吾)	73
宗教学 II (石井 修道)	73
哲学 (久保陽一・国嶋一則・中村友太郎)	73
論理学 (小宮山 隆・戸田 洋樹)	73
歴史学 (広瀬 良弘)	73
文学 (岡本 恭子)	74
芸術学 (日本美術) (竹内 尚次)	74
芸術学 (西洋美術) (宮崎 克己)	74
社会分野	
法学憲法 (和知 恵一)	74
経済学 (荒木 勝啓)	74
政治学 (小林 正敏)	74
社会学 (橋爪 敏)	74
文化人類学 (加藤 正春)	75
地理学 (赤川 泰司)	75
地理学 (渡邊 盾夫)	75
自然分野	
自然科学概論 (宇和川正人)	75
自然科学概論 (齊藤 浩三)	75
数学 (齊藤 浩三)	75
生物学 (菅原 敬)	75
生物学 (清水 善和)	76
心理学 (天野 珠子)	76
心理学 (坂原 明)	76
人類学 (中島 寿雄)	76
地学 (宇和川正人)	76
化学 (高木 正博)	76
物理学 (篠原 正雄)	76

外国語科目 (共通)

英会話 (N. Readdy)	77
英会話 (W. D. Hubbard)	77

保健体育科目 (共通)

体育実技	78
------------	----

随意科目 (共通)

宗教学特講 I (松田 文雄)	81
宗教学特講 II (脇本 平也)	81
宗教学特講 III (洗 建)	81
哲学特講 I (東洋) (篠原 寿雄)	81
哲学特講 II (西洋) (国嶋 一則)	81
宗教人類学 (佐々木 宏幹)	81
民間信仰論 (谷口 貢)	81
日本宗教文化史 (脇本 平也)	81
民衆宗教成立史 (松田 文雄)	82
歴史哲学 (国嶋 一則)	82
美術史概説 (林 良一)	82
東洋思想研究 (船津 富彦)	82
日本文化史 I (圭室 文雄)	82
日本仏教史 (圭室 文雄)	82
日本民俗学 (山折 哲雄)	82
ドイツ語 F (栗原 万修)	82
ドイツ語 F L L (初級) (松本 洋子)	83
ドイツ語 F L L (中級) (小林佳世子)	83
フランス語 F (小玉 齋夫)	83
フランス語 F L L (初級) (松岡 宏一)	83
フランス語 F L L (初級) (マドレーヌ・マルタン)	83
フランス語 F L L (中級) (マドレーヌ・マルタン)	83
中国語 F (刈間 文俊)	83
中国語 F L L (初級) (果 荃 英)	83
中国語 F L L (中級) (羅 漾 明)	83
スペイン語 F (佐藤 玖美子)	84
スペイン語 F L L (初級) (ホワン・ナパロ)	84
スペイン語 F L L (中級) (ホワン・ナパロ)	84
ロシア語 F (前期) (杉山 秀子) (後期) (岡沢 宏)	84
ロシア語 F L L (初級) (タチャーナ・バリーソヴナ・野村)	84
ロシア語 F L L (中級) (タチャーナ・バリーソヴナ・野村)	84
日本語 F (初級) (留学生対象) (前期) (杉山 秀子) (後期) (大塚 純子)	84
日本語 F (中級) (留学生対象) (大塚 純子)	84

一般教育科目(共通)

人文分野

宗 教 学 I

佐々木 宏 幹

「宗教とはなにか」という問題にたいして、これまで積みあげられてきた宗教学の研究成果を手がかりにアプローチする。この間に諸宗教形態の特質、宗教の種類、歴史、社会的機能、現代的意味などについて考察する。とくに仏教の世界観・人生観と実践体系について宗教学的に問題にしたい。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

〔参考書〕 脇本平也『宗教を語る』(日新出版)

宗 教 学 I

山 岡 隆 晃

宗教は人類に普遍的な文化的現象であるとの認識に立ち、宗教の社会的な意味や構造・機能について概観する。さらに、宗教文化の基層をなしているシャーマニズムや外来宗教としての仏教、及び両者の関係など、わが国における宗教現象の個別的な問題についても考えてみたい。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

〔参考書〕 適時、指示する。

宗 教 学 I (再クラス)

岡 部 和 雄

前半では宗教とは何かという問題を現代のアクチュアルなテーマをとりあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)、『仏教の歩んだ道I』(東京書籍)

宗 教 学 I (再クラス)

奈 良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教学ハンドブック』(世界書院)

宗 教 学 II

青 龍 宗 二

この講座は宗教学Iをうけて「禅仏教」を講じてゆくが、特に建学の理念を留意しながら、道元禅師の禅思想を通して、その現代的意義をも考えてゆきたいと思う。

宗 教 学 II

峯 岸 孝 哉

中国で成立し、大いに展開をとげた禅仏教の解説を目的とする。まずインド、中国、日本における禅仏教の歴史について述べ、続いて禅仏教の思想的構造について考える。さらに禅仏教のもつ今日的意味や機能について考える。

〔教科書〕『宗教学II』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違について理解、禅仏教の立場の思想的理解および宗教（禅）と人生との関わり合いとそこからの種々の問題について考察する。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『宗教学II』（更生社）

宗 教 学 II

若 月 正 吾

昭和の初期、和辻哲郎博士の「沙門道元」によって近代における道元禅師の日本精神史上の位置づけがなされ、続いて秋山範二氏の「道元の研究」さらには田辺元博士の「正法眼蔵哲学私観」の著書によって、道元禅師の研究は学界の注目するところとなった。

道元禅師の著「正法眼蔵」の研究は戦後ますます旺んになったが、その内容はまことに難解とされている。

「正法眼蔵随聞記」は禅師の弟子懷辨禅師が親しく随侍した間に、教えを聞くに随って書きとめたもので、正法眼蔵研究の手がかりとなる好個の書である。随聞記を講読することによって、道元禅師の思想ならびに禅とは何かということを摸索してみたいと思う。

〔教科書〕大久保道舟校註『正法眼蔵随聞記』（山喜房佛書林） ¥ 1,000

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行われている宗教学IIとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Iの後を承けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ科目である。インドからや

って来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかけを重要課題とするので、第二は禅という自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕『宗教学II』山内舜雄編（更生社）

¥ 1,950

哲 学

久 保 陽 一 ・ 国 嶋 一 則 ・ 中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのかわからない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕『哲学思想の歴史』（公論社）

論 理 学

小 宮 山 隆 ・ 戸 田 洋 樹

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕その都度指示する。

歴 史 学

広 瀬 良 弘

歴史の流れや社会・文化の諸様相をみることによって、歴史を視る目を養いたいと思う。本講座では、とくに、日本の中世から近世にかけての各時代の社会・文化・宗教等の諸様相を具体的にみる中で、その目的を達成したいと考えている。

〔教科書〕 とくになし。
〔参考書〕 講義中に示したい。

文 学

岡 本 恭 子

文学とは何かを客観的に定義づけることは不可能である。では文学とはなんのために存在するのか、また文学と人間はどのような関係にあるのかという問題にしぼると、ある程度、具体的な答が得られるのではなからうか。その方法のひとつに、文学に携わった人たちが、どのような意識をもって文学にかかわったかということ、歴史の流れに添って考察してみるのも有効であると考える。

ここでは、特定の時代、ひとりの作者、ひとつの作品に焦点をしばらない。

〔教科書〕 未定

芸 術 学 (日本美術)

竹 内 尚 次

日本美術のなかで重要な位置を占める禅林美術とは、如何なるもので、如何に展開して花咲いたか、という問題を、その本質を解明することによって理解したい。

まず、曹洞宗の高僧風外慧薫・風外本高禪師の画事から出発し、中国宋元時代の美術、我国鎌倉後期および室町時代の美術を検討することによって、禅林美術の本質を明らかにしたいと思う。つまり、禅宗教団史とのかわりのなから禅林美術の位置を解明しようとするものである。

なお、国宝・重要文化財などの美術作品を直接に鑑賞することも一つの作業とする。

〔教科書〕 『思想の群馬(風外慧薫)』(あさを社) ¥800

〔参考書〕 『夢想国師』玉村竹二著(平楽寺書店)

¥2,200

芸 術 学 (西洋美術)

宮 崎 克 己

ヨーロッパの美術の流れを、11世紀のロマネスク美術より20世紀の現代美術まで概観する。絵画や彫刻のみならず、ヨーロッパの美術で常に大きな役割を果たしてきた建築にも触れる。美術作品の基本的な見方、そして歴史の基本的な見方について、具体的な物を通して考える。

〔参考書〕 『美術の歩み』(上・下) E・H・ゴンブリッチ著(美術出版社)

社 会 分 野

法 学 憲 法

和 知 恵 一

われわれは日常の社会生活の中で、無意識のうちに「法」とかかわりを持っている。たとえば、交通機関を利用する、アパートを借りる、食堂で食事するといった日頃の活動も常に「法」的な側面を持っているのである。

これら「法」の本質、あるいはその発展状況をふまえながら、社会生活をおくるうえで必要不可欠な法知識の基礎を学習してもらおう。そのために、日常生活に密着した多くの具体的事例を挙げて講義を行う。

〔教科書〕 小林弘人・和知恵一他著『事例法学入門』(東京教学社)、六法

〔参考書〕 小林弘人他著『憲法27講』(創成社)

経 済 学

荒 木 勝 啓

ケインズ理論の入門と現代マクロ経済学および経済政策の基礎を講義する。

〔参考書〕 中谷 巖『入門マクロ経済学』(日本評論社) ¥3,300

政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の諸課題を、その理論、歴史、制度など多面的な視野から取り上げることにはしたい。また社会学科の政治学であることを考慮して、政党、圧力団体、選挙、政治意識などは、政治社会学的な考察にも意を用いたい。

〔教科書〕 高橋正則他『現代日本の政治構造』(芦書房)

社 会 学

橋 爪 敏

社会学という学問のもつ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言

えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係の現象、集団の現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』〔新版〕(学文社)

〔参考書〕 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)

文化人類学

加藤正春

文化人類学の基本的な概念、方法、課題等を講義する。具体的な事例をおおくあげながら、社会組織、宗教・儀礼・世界観その他の人類生活の諸側面を検討する。また、沖縄をふくむ日本の伝統的民俗社会と文化についても適宜紹介したい。

地理学

赤川泰司

概ね次の内容を取りあげる計画である。

○地理学の本質と方法について考察し、自然環境をベースにして、人間生活(民族・文化)、生産活動などについてグローバルな視点から概観する。

○現代社会における地理学の意味を、人口・食糧問題、資源・エネルギー問題、環境(生態系)問題、国際関係などの課題を通して考察してみたい。

※開講時に、受講する学生の高校時代の社会科履修科目状況、また各自の専攻を調査した上で、講義内容を具体的に検討したい。従って多少の変更が予想される。

〔教科書〕 特に指定しないが、プリントでまとめている予定。

〔参考書〕 文献、研究事例をその都度紹介していく。

地理学

渡邊盾夫

この講義では、人文地理学を中心にし、地理学史、自然環境、この自然環境の中で人間がどのように適応して活動をしているのかを講義する。

講義では、特に教科書は使用しないが、必要な時にはプリントを配布する。

自然分野

自然科学概論

宇和川正人

自然環境と資源、とくに水資源、農林海洋、エネルギー資源の諸問題について解説する。あわせて、これら資源の開発利用と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 その都度紹介する。

自然科学概論

斉藤浩三

まず、地球の構成ならびに性状を概述し、ついで地圏・水圏・気圏にまたがる諸事象のうち、われわれの生活に大きな影響をおよぼす大気汚染、水質汚濁などの環境問題や自然災害の実態をさぐり、さらにこれらの防止技術の現状について講義する。

数 学

斉藤浩三

科学、技術、産業、経済、社会などあらゆる分野において、膨大な量のデータが氾濫している。これらのデータを統計的手法によって整理・集約し、図表化することによって、はじめて情報として役に立つようになる。データの集計・整理、図表の作成、集団の特性、相関、分布、検定、標本調査などの基本事項について、例題を示して解説し、また随時演習も行う。

生 物 学

菅原敬

生命の起源、遺伝、老化、そして生物の進化など現代生物学のかかえる中心的課題について、これまで研究がどのように展開され、どの程度解明されたかを解説していく。また今後の課題などについてもふれる。

〔教科書〕 『バイオサイエンス』(芦書房) ¥2,000

生 物 学

清 水 善 和

生物資源、遺伝子工学、がん、環境汚染など、最先端の問題をとりあげながら、現代生物学の主要な分野をなす遺伝学、免疫学、分類学、生態学などの基礎的な知識の修得をめざす。

〔教科書〕 なし

心 理 学

天 野 珠 子

この講座は、一般教養科目に組入れられているので、心理学を始めて学ぶ学生を対象に、心理学の基礎的分野のそれぞれについて概観し、現代心理学の理解と、日常生活への適用を捉えて行きたい。

心理学を学ぶことで、人間の行動や精神を客観的に把握することができる、社会生活における人間関係や物の見方が変わってくるものと思われる。従来の研究成果をもとに、具体的事例を紹介しながら講義を進めてゆきたい。

〔参考書〕 『心理学概説』（八千代出版）

心 理 学

坂 原 明

心理学の各分野を概観し、その基礎的な知識を解説すると共に、今日、社会において心理学が担っている問題について考えてゆきたい。また、日常生活において見られる人間の様々な行動を従来の研究成果をもとに解説し、心理学的なもの、考え方などのようなものであるかを考えてゆきたい。講義では、随時供覧実験などを折り込み心理学的研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）

人 類 学

中 島 寿 雄

一般教育の人類学の講義は、広範な領域を包括するこの学問の性格のため、とかく散漫になりやすいので、年間30回に限られた講義においては、題目をしぼって集中的に行なうことも一法である。本年は「性」を中心として講ずるが、これは性が年齢とともに人類学上の重要な指標であり、人類学のほとんど全範囲を被らうからで

ある。性の問題を明らかにしながら、さらに、人類学にとって最も重要な課題の一つである「人類起源」を、とりわけ社会起源との関連において講じたい。

〔教科書〕 ノートを用いて講義するので教科書は用いない

〔参考書〕 講義中に適時指示する

地 学

宇和川 正 人

気・水・地圏および生物圏を通じて、人類とのかかわりあいを主軸にして解説する。あわせて、自然環境の保全に関する諸問題について考察する。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 その都度紹介する。

化 学

高 木 正 博

まず、化学の領域における基礎的な諸事項を解説する。つぎに、地球化学および環境化学の立場から、化学物質と自然環境の結びつきや、さらにいくつかの身近な化学物質をとりあげ、化学物質と人間のかかわりあいについてのべる。

物 理 学

篠 原 正 雄

「力」とは何だろうか。日常さまざまな意味で用いられる「力」「重さ」などの語も、物理の世界でははっきりと限定された意味を持っている。本講では力、質量、エネルギー、波などの諸概念について、物理学の発達の流れの中でとらえてみたい。

〔教科書〕 『教養の新物理学』（東京教学社）¥1,300

外国語科目(共通)

英 会 話

N. Readdy

The textbook used in this class [ENGLISH 900] is an audiolingual method and requires tapes [about 15 minutes per class] as well as class participation, both group and individual. ENGLISH 900 implies the 900 sentences which are considered essential for speaking every day English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he can use them with ease as well as make substitutions using the sentence base as a guide. There will be two examinations each school year. Students are required to attend both.

TEXTBOOK: ENGLISH 900. Book 3. COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL The English 900 series consists of 6 books with 10 chapters per book. In this class we will be using book 3 only.

英 会 話

W. D. Hubbard

This aural comprehension and speaking oriented course is designed for those students who either expect to study English conversation for just one year or plan to further their competence through subsequent classes. The ability to communicate in English is a very useful ability to have. Through the use of effective linguistic methods, this course is designed to help you acquire the ability to successfully communicate your ideas in English.

The text for this course will be ENGLISH 900, Book 3. Tapes for this text will also be made available during the course.

保健体育科目(共通)

実技種目の概要及び指導教員名

一年次生種目〈玉川校舎〉

室内球技(玉川体育館)

宮沢 栄作・光永 吉輝
村松 誠・久保田洋一
関本美津子

バレーボール、バスケットの基礎技術の習得とともに、ゲームにより、その競技を理解する。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

体操(玉川体育館)

竹田 幸夫

マット、鉄棒などを中心に、初心者を対象とした遊戯的内容から出発し、段階的に技を習得する。

服装：一般的運動服装，体操シューズが望ましい。

トレーニング(玉川体育館)

田中 佳孝・高森 秀蔵
武藤 幸政

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し、主に最新のトレーニング器械を使用した体力トレーニングを行う。このトレーニングの目的は体力の増進，内臓器官の強化である。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

柔道(玉川体育館)

光永 吉輝

初心者を対象として基本技能(受け身)，応用技能(投げの形)(固の形)等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

剣道(玉川体育館)

上山 智身

剣禅一致の精神に基き，初心者を対象として次の順序で実施する。

1. 基本動作
2. わざ
3. 懸り稽古，互格稽古
4. 試合稽古

服装・試験については最初の授業において説明する。

空手道(玉川体育館)

大石 武士・高橋 俊介

拳禅一致の精神に基き，初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技(空気を相手に，受，突，打，蹴技の反復練習)
2. 形(基本の受，突，打，蹴を合理的に構成したものを空気を相手に行う)
3. 護身術
4. 約束基本組手(基本技で取得した，受，突，打，蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手)

服装は原則として空手道衣着用のこと。

相撲(玉川体育館)

館岡 儀秋

基本技(攻の型・守りの型)の練習を主に，併せて応用技の習得を行い，心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相撲パンツを着用する。

陸上競技(玉川グラウンド)

森本 葵

駒大式四種競技(100米，長距離，砲丸投，走高跳)

